

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第89回

公社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第89回目は、金型製作、成形、めっき、塗装、組立等プラスチック製品の一貫生産を行っている平和工業株式会社をご紹介します。同社は城南支社が実施している経営者交流会に参加されているほか、公社事業を幅広くご利用いただいています。

「プラスチック製品の一貫生産を通して社会に貢献する」

平和工業株式会社

●めっき専門企業として創業

平和工業株式会社は、建築金具および自転車部品主体のめっき専門企業として昭和21年6月に大田区南雪谷で創業し、今年で68年目を迎える。昭和32年に本社工場を品川区五反田に移転したが、合理化の徹底と完全無公害化を実現するため昭和52年に中央鍍金工業協同組合の一員として高度化事業（注1）を利用し大田区京浜島に集団化移転した。現在本社工場の

ある京浜島は、中小企業が集積する大田区の東部に位置し、公害防止を目的として昭和40年代から都内中小企業が移転した地区である。現社長の内藤雅文氏は、創業者であり、



本社工場外観

父である内藤保夫氏が昭和51年に急逝したため34歳の若さで代表取締役社長に就任した。その後、先代社長の意志を継ぎ環境負荷軽減と顧客第一主義を最優先課題として取り組むとともに、一人ひとりが幸せを実感できる社会を創り上げることを目指して同社の経営を行ってきた。

●戦略的に取り組んだ

プラスチック製品の一貫生産

同社は、昭和30年代の後半からプラスチック成形品に対するめっき技術の応用に取り組み始め、関東学院大学との共同研究のもと昭和41年、我が国でいち早くプラスチック

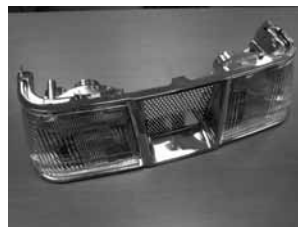
めっきの工業化に成功した。以後、プラスチック成形品のめっき加工を極めるとともに、同社最大の強みであるプラスチック製品の一貫生産を展開するための体制を構築した。

プラスチック製品の一貫生産とは、従来、顧客が外注を活用していた金型製作から射出成形、めっき、塗装・印刷、そして組立などの生産を同社が一括して行うことである。めっき加工を専門としていた同社が一貫生産を始めたきっかけは、顧客からのニーズに



本社工場自動めっきライン

あった。すなわち、プラスチック製品を完成させるためには外注依頼を何度も繰り返さなければならない。また、不良品が発生した場合、不良の原因がどの外注先で起きたのかを特定

一貫生産による製品
(トラクターのヘッドライト部分)

する過程でトラブルが生じることなどもある。これらの問題を解決できれば、品質の向上、コスト削減につながることから既存顧客の要求を満たし、さらに新規顧客を獲得できる可能性が高いと判断し、一貫生産体制を構築した。

同社は、“金型製作”、“射出成形”、“めっき”、“塗装・印刷”と分野の異なる一連の生産技術と設備及び協力企業を有し、工程管理、品質管理を精緻に行い最適な生産を実現している。京浜島には、めっき加工を行う本社工場のほか、金型工場、成形工場も立地し、

在庫数量を最低限に抑え、短納期で対応できる体制を整えている。さらに、プラスチック成形工程ではガスアシスト成形(注2)、めっき工程ではダイレクトめっき工法(注3)などを採用するなど、品質の向上、コスト削減のために最新技術を導入している。取扱う製品分野は、自動車、家電、電子、アミューズメント、住宅関連各部品等々と幅広く、製品サイズは、2,500mm(縦)×1,000mm(横)×300mm(高さ)から5mm(縦)×5mm(横)×5mm(高さ)と大型製品から微細な製品まで対応可能である。

● 交流会で得た情報の活用

公社城南支社では経営者間での経営情報交換を促進することを目的に東京都城南地域中小企業経営者交流会の運営を支援している。交流会参加メンバーは、本社が城南地域にあり、金属加工、電子部品、化学、機械設計、めっきなどの業種に属する製造業関連企業の経営者である。同社の専務取締役内藤隆夫氏は、交流会の設立当初からのメンバーであり、交流会で積極的に情報交換を行っている。定例会は毎月1回開催されており、経営者の報告や工場、研究施設、展示会等の見学や外部講師を招いた勉強会などを積極的に行なっている。勉強会では、経営戦略、資金調達、労務管理、アジアの投資環境など様々なテーマで活発な議論がされている。

交流会で得られた有用な情報は同社の意思決定に活用されるほか、そのエッセンスは、すぐにミーティングで従業員にも伝えられ、生産活動などにも役立てられている。これまで内藤専務は交流会の代表幹事も務めたこともあり、参加しているメンバーから厚い信頼を寄せられている。

● ISO認証取得で経営効率を改善

同社本社工場は、城南地域のめっき関連企業により設立された京浜島の中央鍍金工業協同組合内に立地している。同組合は、環境負荷低減に関する意識の高い企業が、排水の共同処理を最大の目的として設立した組合であり、その問題意識を共有することから組合員相互の強い信頼と連帯関係が構築されている。このような背景のもとに同組合は、平成10年に組合員企業13社と組合員の排水処理を担当する共同処理センターの14事業体でISO14001を取得した。組合での取得は、各社が個別に取得するより、協力して取組むほうが取得や維持・向上が容易になると考えたからである。さらに、企業体質を強化するためISO9002(注4)を平成13年にISO14001と同形態で認証取得した。ISOマネジメントシ

ステムは、合理的な経営管理をするうえで極めて有効であり、認証を取得し、これを経営基盤とすることで経営効率を飛躍的に改善させることができた。また、ISOは環境改善、品質保証にとどまらず顧客満足度を向上させるために同社で最大限に活用されている。

● さらなる発展に向けて

内藤社長は、同社と関係のあるすべての企業および従業員のために自らの力を最大限に発揮したいという信念を持っており、その信念から業界発展に貢献するため全国鍍金工業組合連合会のほか2つの産業団体(注5)の要職を歴任し、現在も前述の中央鍍金工業協同組合理事長のほか東京



内藤雅文代表取締役社長

東京浜島工業団地協同組合連合会会長も務め、京浜島の中小企業のためにさまざまな活動を行っている。その功績が認められこれまで国や東京都の表彰を多数受賞している。このような卓越した力量をもつ社長の指導のもと時代のニーズをたえず先取りして、多彩な技術開発に挑戦し、業界に貢献してきた同社のさらなる発展を期待したい。

(城南支社 佐藤豊彦)

注1:中小企業者が組合などを設立し、経営基盤の強化や環境改善に取組む事業に対して資金及びアドバイス面から中小企業基盤整備機構と都道府県が一体となり支援する事業。第三セクターや商工会などが地域の中小企業を支援する事業に対しても利用することができる。

注2:成形品表面に生じる陥没現象や成形品内の収縮率の違いからおこる変形を解決する手段として、あるいは大型製品の低圧整形手段として用いられる成形法。((地独)大阪市立工業研究所プラスチック読本編集委員会、プラスチック技術協会 共編『プラスチック読本(第20版)』プラスチック・エージ、2009年、258-260頁。)

注3:工数削減とそれによる歩留まりの向上を目的として実用が始まった。(電気鍍金研究会編 『現代めっき教本』日刊工業新聞社、2011年、184頁。)

注4:平成14年にISO9001:2000に移行している。

注5:東京都鍍金工業組合、東京鍍金公害防止協同組合。

企業名:平和工業株式会社
 代表者:内藤 雅文
 資本金:1,000万円 従業員数:80名
 本社所在地:東京都大田区京浜島2-2-4
 TEL:03-3790-1031
 FAX:03-3790-2828
 URL:<http://www.heiwakogyo.com/>